



SPECIAL INTERVIEW

皇后杯 JFA 第44回全日本女子サッカー選手権大会 優勝 日テレ・東京ヴェルディベレーザ 竹本一彦監督

巻頭特別企画

TOKYO発世界へ -最高のまかない-
第4回フットボールカンファレンス 開催レポート

TOKYO FA's Pick Up

FC町田ゼルビア
三輪緑山トレーニングセンター

INTERVIEW

JFA 第28回全日本U-15フットサル選手権大会
優勝 フウガドールすみだウイングス 清家大葵監督

GAME REPORT

第101回全国高校サッカー選手権大会
東京都U-12フットサルリーグ

EVENT REPORT

JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル2022

TOPICS

めざせクラッキ！

私たちは 東京都サッカー協会を 応援しています。

初声町和田長浜太陽光発電設備



神奈川県初声町和田(和田長浜海岸側)
2021年4月
取得名義:株式会社スカイ・ランド
(日本水資源開発株式会社関連会社)

人を潤し自然を守る
ECO UP PROJECT

 日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永 利明

《東京営業所》

〒142-0063 東京都品川区荏原3丁目2番6号
TEL 03-3477-2477 FAX 03-3477-7661

FC 町田ゼルビア 三輪緑山トレーニングセンター「三輪緑山ベース」



FC 町田ゼルビアが昨年 2 月に町田市にオープンさせた練習場「三輪緑山ベース」。この施設の成り立ちやコンセプトについて株式会社ゼルビアの上田武蔵代表取締役 COO にお話を伺った。

昨年、念願のクラブハウスが完成

J2リーグを戦うFC町田ゼルビアのクラブハウスは、町田市三輪緑山エリアの閑静な住宅街に佇んでいる。自然豊かな環境に囲まれているため、「自然との調和」をコンセプトに掲げたスタイリッシュなデザインは、国立競技場の建設にも携わった建築家の隈研吾氏が手掛けていることでも大きな話題を呼んだ。新たなゼルビアの拠点は、通称「三輪緑山ベース」として、地域住民に親しまれている。

木をふんだんに使った屋根は斜めの角度で佇み、ホワイトベースの外観や様々な位置に配置された窓が一際目を引く。「ガラス張りの入口はおしゃれ感を演出していますし、玄関や食堂には太陽の光が入るため、中はとても明るいです。そうした造りはクラブハウス内の雰囲気作りに一役買っています」。そう話すのは、株式会社ゼルビアの上田武蔵代表取締役COOだ。

2012年に初めてJリーグに参入して以降、ゼルビアは長らく専用の練習場とクラブハウスを持たないクラブだった。そのため、J1昇格に必要不可欠なJ1ライセンスを取得する上で、ハード面の整備が最も高いハードルとして立ちはだかってきた歴史がある。

それでもゼルビアは、2018年10月から国内有数のIT企業であるサイバーエージェント（以下、CA）グループが経営に参画したことでクラブを取り巻く環境が激変した。次第にクラブハウス建設の機運が高まる中、三輪緑山地域の協力や理解を得た上で、候補地として選定された三輪緑山クリーンセンターの敷地内にクラブハウス建設が決定。2022年2月には親会社のCAグループが出資する形で念願のクラブハウスが完成した。



クラブハウスは、クラブ内だけでなく、住民との接点作りも一役買う

こうして新たな拠点が誕生したことにより、トップチームの練習環境としての利用はもちろんのこと、クラブの事業機能も本格的にクラブハウス内へと移行。サッカーのピッチが2面取れるほどの広大な天然芝のグラウンドは、Jクラブの中でも有数の充実度を誇る。「筋トレルームの広さや充実度は見学者の方も驚かれるほどですし、選手たちがトレーニングをする上でも、とても良い環境だと思います」と胸を張る。

その他には選手も利用する食堂にテラス席が隣接されていることも特徴的。「クラブハウスはとても居心地の良い施設です。いろいろなことに挑戦し、新しい道を切り拓いていこうとするクラブのマインドに適している環境なので、出社して仕事がしたい、そう思える環境でもあります」と気候が暖かい時期はクラブスタッフが気分転換に、ミーティングルームや休憩所として利用することもあるようだ。

また、クラブの事務所機能とトップチームの環境がクラブハウス内に集約された効果は、事業面での大きな変化に繋がっているという。以前は事務

所とトップチームの練習場が離れた場所にあったため、現場と事業側が物理的に分離してしまうデメリットが拭えなかった。今では1つ屋根の下に、選手やクラブスタッフが一堂に会している。「それこそ、『ナイスゴール!』といった選手とのコミュニケーションも自然と生まれますし、選手からサイン1つをいただくにしても、効率性が上がりました。三輪緑山ベースは、クラブの事業を格段に加速させることにも繋がっています」と、毎日顔を合わせられる環境であることが、クラブとしての一体感を醸成しているという。

さらにクラブハウス効果は社内だけではなくとどまらない。三輪緑山地域を筆頭とした住民との接点作りにも、一役買っているようだ。

例えば試合日にはクラブハウスからスタジアムまでバス利用による観戦ツアーを実施。昨季から利用者は右肩上がりで人気を博している。またクラブハウス内の敷地は、施設利用の登録と申請さえ済ませれば、予約制で利用できるため、今年は昨年比で1.5倍ほど利用が増えているという。施設利用の形は千差万別。例えば、地域のサッカークラブのトレーニングや、ドローン関連の資格を取るための操縦練習、さらには体操・ヨガ教室での活用と、フリースペースとして利用する住民が増えてきた。上田COOが地域住民との接点作りの手ごたえについてこう語る。

「昨年の10月には鶴川第四小学校の5年生全員が遠足兼社会科見学の一環として、クラブハウスを見学に訪れました。選手たちやクラブのマスコットであるゼルビーとの記念撮影は、とても微笑ましい光景でしたし、これは地域の方々との交流という意味では良い事例です。これからも地域に馴染みながら、クラブハウスを利用していただく機会を増やしていきたいです」。

なお、三輪緑山地域の住民が気軽に利用できる「ふれあいルーム」は平日の9時から17時まで解放中とのこと。通常の見学スペースよりも、間近でチームの練習を体感できる絶好の環境だ。また春先はクラブハウス周辺が桜満開になる。散歩スポットとしても、価値がありそうだ。

「三輪緑山ベースは野津田（町田GIONスタジアム）に次ぐ、ゼルビアにとっての第二のホームだと思っています。これからもゼルビアが三輪緑山や町田市民の方々に、いきがいや毎日の生活の楽しさを提供できるようにしていきたいです。また春先は桜並木がきれいですから、ぜひとも散歩がてら、練習見学や選手のことを応援するために足を運んでいただけたらうれしいです」。そう言ってクラブハウスの有効活用を呼び掛けた。ゼルビアの新拠点である三輪緑山ベースは、町田市民の憩いの場として、その存在価値が次第に高まっている。



基本情報

FC町田ゼルビア三輪緑山トレーニングセンター
東京都町田市三輪緑山1丁目1

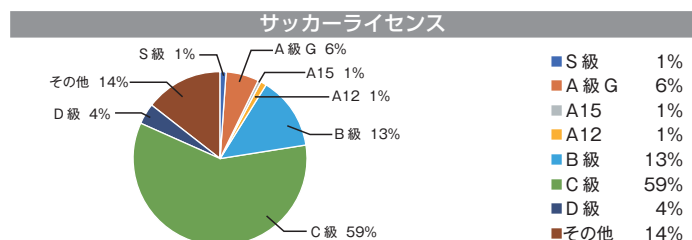
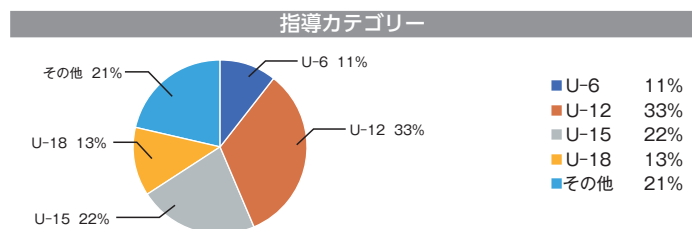
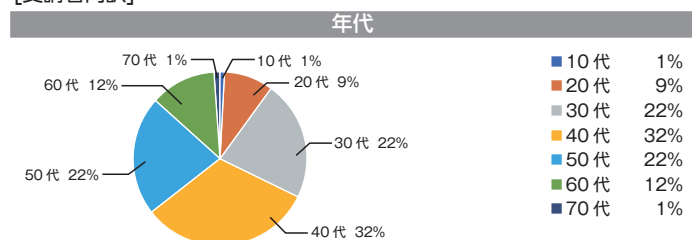
「TOKYO 発世界へ ―最高のまかない―」

第4回フットボールカンファレンス

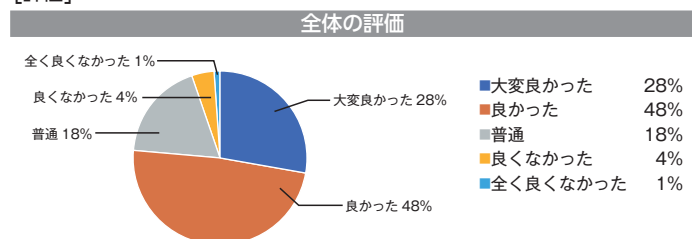


1月28日、『第4回フットボールカンファレンス』が、日本大学文理学部百周年記念館で開催された。指導者や一般受講者約700名が参加し、東京都における各連盟・委員会の取り組みや活動、選手育成・強化に関する情報共有が図られた。

[受講者内訳]



[評価]



受講者内訳は40代が一番多く30代、50代の参加者を含め全体の7割以上を占めた。またサッカー指導ライセンス（S級～D級）保有者は約9割で、その他が1割だった。指導カテゴリーはU-6からU-18の指導者が全体の約8割を占め、その他が2割という結果になった。

プログラム

総合司会 笹木かおり氏

第1部

東京都少年サッカー連盟、東京都中学校体育連盟サッカー専門部、東京都クラブユースサッカー連盟
株式会社フィットネスアポロ社 Hudl 製品プレゼンテーション

第2部

東京都高等学校体育連盟サッカー専門部、東京都社会人サッカー連盟、東京都女子サッカー連盟
大塚製薬株式会社 製品紹介

第3部

キッズ委員会、フットサル委員会、審判委員会、日本障害者サッカー連盟
株式会社大修館書店 書籍紹介

第4部

東京武蔵野ユナイテッドFC、クリアソン新宿、日テレ・東京ヴェルディベレーザ、スフィード世田谷FC
フリースタイルフットボール 眞嶋優 with 横田陽介

第5部

Jクラブ パネルディスカッション
FC東京、東京ヴェルディ、FC町田ゼルビア
モデレーター 山本 浩氏

何より東京から世界へ

オープニングでは東京都サッカー協会の林義規会長が登壇。「記憶に新しいと思いますが、昨年は日本代表がワールドカップ・カタール大会で活躍しました。U-15高円宮杯男女、高校選手権、プレミアリーグチャンピオンシップ、全小の全国大会等、多くの選手たちの活躍や思いを私自身も肌で感じました。また日本代表が世界で活躍しドイツ代表、スペイン代表など優勝国に勝利できたことで日本中が盛り上がり、サッカーという競技に関心を持っていただきました。この盛り上がりで



東京都サッカー協会の林義規会長



続けていかなければいけないと思っています」と話すと、続けたのはこの言葉。「何より東京から世界へ」と力強く呼びかけカンファレンスの幕は上がった。

続いて、各連盟や各委員会、TOKYOクラブ（武蔵野ユナイテッドFC、クリアソン新宿、東京ヴェルディベレーザ、スフィーダ世田谷）の代表者が、これまでの取り組みや成果など映像を交えプレゼンテーションを行った。自身が携わる連盟や委員会のことは知っていても、他の連盟や委員会の活動はあまり知らないことは当然ある。様々な知見を得る絶好の機会となり、参加者らはすべての報告に対し熱心に耳を傾けていた。

未来への道標

最後のセッションとなったJクラブパネルディスカッションではFC東京の小原光城ゼネラルマネージャー、東京ヴェルディの江尻篤彦強化部長、FC町田ゼルビアの原靖フットボールダイレクターが登壇し、元アナウンサーの山本浩氏の進行でセッションを行った。

まずは「ワールドカップ カタール大会を振り返って」というトークテーマでスタートする。冒頭で林会長の挨拶の中でも語られていたが、日本代表は2つの優勝経験国と同居する“死の組”と言われていたが歴史的な戦いを演じ、堂々とグループステージ首位で決勝トーナメントに駒を進めた。決勝トーナメントではPK戦で敗れ、ベスト8の壁に跳ね返されたが世界との距離感が縮まっていることを印象づけた。小原氏は「単純に面白い大会だと思っていた、今後ベスト16以上を超えていくために何が必要かという観点で見えていました。その中、クロアチア代表がヒントになると思いました」。



FC東京の小原ゼネラルマネージャー

江尻氏は「日本代表に海外で活躍する選手が増え、森保監督の素晴らしい采配があって、日本サッカー界にとって大きな分岐点、良い指標になった大会だったと思いました」。また原氏は「日本国民が一つになって応援する機会を創出してくれた日本代表に感謝したいですし、同時に世界はもっと先に行っていることを感じた大会でした」と感想を述べた。

その後、印象に残った代表国や世界で勝つための戦略やトレンド、3カ国がベスト16入りしたアジアのレベルなどが語られた。

そしてJクラブが取り組む若手選手育成について、「公立中学校の部活問題/地域移行」の議論が交わされた。原氏は「この問題は新しいようで古くからある問題でもあります。合併しなければ部活が成り立たない、試合に出場できない、指導者がいないなどの問題があります。2009年当時ですが地元（大分）の3種の責任者の方と話をし、『(クラブから)指導者を派遣しましょう。協力してサッカーを強くしていきましょう』という話を、こちらからさせていただきました。同じフットボールファミリーとして支え合い、子供の自己実現のために協力していくことで町田を応援してもらい、東京V、FC東京を応援してもらうことになっていくのではと思っています」と話すと、小原氏は「取り組むべき大

な問題であり、プロクラブのある意味と意義を地域の方に示すチャンスだと思っています。ヨーロッパでは学校から帰宅するとスポーツクラブでスポーツをする。裏を返すと日本全国にスポーツ文化が根付くチャンスだと思っています、プロクラブとして専門的な知識を共用していくチャンス。それが日本サッカーの発展につながっていく。ぜひ一緒に取り組んでいきたいです」とコメント。そして江尻氏は「まだまだ難しい問題でもあります。普及という地域に根差した活動という形で指導者を送りこんでい



町田の原フットボールダイレクター

ますが、地域のFAさんと、学校の先生方と話しをして、綿密なプランを立てないと絵に描いた餅になってしまう。東京Vとしてはターゲットを絞ってやっていきたい。地域の市町村と連携しながら指導者を派遣し学校体育に絡んでいけることができれば、グラスルーツを含め、他クラブと違う角度から東京都を通してサポートできるのではと思っています」と語った。

Jリーグは「シャレン！」等のプロジェクトを実施していることで早い段階から地域や学校と付き合いの多いクラブも少ないはない。クラブ単体ではなく、リーグやサッカー協会、企業などを含め、社会全体がバックアップしていくことの重要性を説き、子供たちの環境作りに取り組まなければ立ち行かないものになってしまう課題を示した。

最後に山本氏から自クラブで大切にしているものを問われると、原氏はトップチームが勝つことでの訴求力を上げることで「町田から世界へ」とし、江尻氏は育成面からトップを目指し「技術」の質を上げていくこと、小原氏は「可能性・熱狂」が生み出す最先端のクラブになることが重要になるとボードに掲げパネルディスカッションを締めくくった。



東京Vの江尻強化部長

2019年以来4年ぶりに開かれたフットボールカンファレンス。未来への道標が提示され、TOKYOからサッカー界全体を押し上げていく有意義な情報共有が図られると同時に、より良い指導や育成につながっていくレシピが散りばめられていた。サッカーファミリーがベクトルを合わせることで東京から世界で活躍する多くの選手を排出することは可能だ。このフットボールカンファレンスが「TOKYO発世界へ」向けの最高のまかないになること期待したい。



「TOKYO発 世界へ」をキーワードに東京都内高校生にイラストを描いていただきました。Special thanks 東京都立柏江高等学校、東京都立石神井高等学校、東京都立立川高等学校、東京農業大学第一高等学校

各連盟・委員会より発表終えての感想や振り返りのコメントを頂きましたのでご紹介します。



株式会社フィットネスアポロ社ブース



株式会社大修館書店ブース



大塚製薬株式会社プレゼンテーション



当日は、協賛企業のプレゼンやブース出展も同会場内で実施されました。

日本大学の学生には受付や誘導を担当してもらいました。

東京都少年サッカー連盟



年度当初の実行委員会に参加する中で、多くの連盟・委員会が発表する事で、どのような内容・方法で発表したいか悩むばかりのスタートでした。まずは、少年連盟ならではの特徴を伝えたいという思いで、6名の技術スタッフでプロジェクトを編成し、協力体制のもと情報収集からスタートしました。当初は、少年連盟卒業生の代表選手やコーチたちに当日登壇して話をしてもらう予定でしたがコロナウィルスの影響と時間を考慮して事前に録画をした映像を放映する形に切り替えました。

少年連盟の特徴としては以下のようなことが挙げられます。

①小学校1年生から6年生まで、男子も女子も所属していて、登録数は37000人を超える。しかも発育・発達の差も大きい。

②毎年、子供たちがサッカーを始めるのと同時に、お父さん・お母さんコーチとして、コーチを始める方がたくさんいる。また他の仕事をしながらサッカーの指導をしているコーチもたくさんいる。その一方で、プロのコーチとして指導しているコーチもいる。

他にもあるのですが、この二つを中心に伝えたいと考えました。

実際に子供たちやコーチに舞台に立てただければ、もっとインパクトがあったかと思いますが、このような形式での発表でも、少年連盟の特徴は充分伝える事ができたものと自負しております。

最後になりますが、今回発表の機会をいただき、本当にありがとうございました。

藤原 和彦

東京都中学校体育連盟サッカー専門部



始めに、多くの方の前で話す機会を与えていただいたことを感謝しています。

今回の発表で中体連の魅力が多くの方々に伝わるとともに、顧問の先生方への応援になっていることを期待しています。

誰もが経験したことのある中学校生活。多くの方々が入部していたであろう部活動。そんな「誰もが…多くの…」の中にある魅力を再認識していただきかった。グラウンドがある。低コストで毎日プレーできる。レベルにあった選抜活動もある。そして、多くの可能性を秘めた原石たち。原石を原石のままに終わらせることなく、どうやって磨くか?どこまで光らせるか?は、私たち指導者の課題です。

サッカーをきっかけとして、選手たちに良い変化を与えられるなら、今後の学校生活や人生を充実したものにしていくのなら、私たちは努力を惜しみません。

魅力のある指導者がさらに増え、「中体連でサッカーをしたい」と思う選手が多くなることを期待しています。これからの中体連にご期待ください。

関口 剛史

東京都クラブユースサッカー連盟



今回東京カンファレンス2023実施のタイミングと重なるように当連盟は創設30周年を迎えました。歩んできた30年間の歴史を踏まえ「当連盟とは何か?果たすべき役割は何か?今後の連盟の発展は?」をカンファレンス参加者の方々にお伝えすべく企画を立て作品を作り上げました。クラブユース連盟をアピールするための20分間のプレゼンテーションの時間ではありましたが、全ての種別・団体の発表が終わり自然と我々の連盟が存在し得るのも、東京のサッカーファミリーが相互作用して支え合い、補い合いがあつての事であるという思いで溢れました。娯楽やモノが集まる東京という場所の中からサッカーを選んでもらい、誰かにとっての「居場所」創り出す。各団体が近くに存在しているが故に知っているかのように錯覚しておりましたが改めて競技性を高めることだけではない、東京サッカーファミリーの生み出す大きな価値を再認識しました。今後もサッカーに関わる全ての方々の想いのバトンを受け継ぎ、次のステージへバトンを受け渡す。そんな想いを紡ぐ作業を我々は力強く続けて参ります。

杉浦 史浩(登壇者 池内成明)

東京都高等学校体育連盟サッカー専門部



日本の育成ルートは多様化しているにもかかわらず東京高体連からはトップトップの選手を多くは輩出できていない現状があること、そして、たくさんの指導者の育成のバトンによって育ってきた選手たちが高校サッカーで現役を終えてしまう現状があることがわかり問題意識を持ちました。しかしながらその反面、サッカーを支える側の人材育成については多くの分野で高校サッカー卒業生が活躍していることも分かりました。

高校3年間という短い時間の中で目標を達成しようと、選手も指導者も努力を重ねています。「高体連は遅咲き選手が逆転を狙える場所」であること。そう考えると、ゴールの設定をもう少し長いスパンで考えることができれば、各チームの強化方法や指導方法にも大きな変化が生まれるような気がしました。

私たちは日常に変化を与え、自チームの強化に努めながらも選手の寿命を最大限に延ばすこと、そしてサッカーを愛し支えるサッカーファミリーを今まで以上に生み出し続けることなどに意識を向け今後も活動していきたいと思っています。

私たちの仕事は、土台を作り種を蒔く仕事です。今回のカンファレンスでは、高体連が進むべき指針を考えるきっかけとなりました。また、各連盟がコラボしながら新しい価値観やワクワクするような取り組みが生まれることに期待しています。

長山 拓郎

東京都社会人サッカー連盟



本プロジェクトが立ち上がり、開催の目的である「連盟の取組みの発信、認知度を上げる」これをどうやって見て頂く方々に伝えるのかを考えたとき、在籍しているチームが平日仕事をしながらサッカーをする企業チーム・社会人クラブがほとんどを占めていた時代から現在はJリーグを目指すチームやそこに現役の大学サッカー部が加わり週末熱い戦いを繰り広げている様子を知って頂く為に「仕事とサッカーの両立」をテーマに映像を主体として伝える事にしました。

平日フルタイムで働き練習は夜間に行い週末は試合、そして翌日勤務という大変さ、また社会人と毎日サッカーに打ち込んでいる大学生とが同じカテゴリで試合をする醍醐味。そしてこれまでプロになるかサッカーをやめるかの選択しかないと感じていた中で就職後、社会人としてサッカーを続けるという選択との出会いなど、それぞれ立場の違うチームを取材させて頂くなかで連盟がその役割の一端を担ってきたと実感出来た期間でもありました。

お忙しい中取材にご協力いただいたチーム及び選手の皆様にお礼を申し上げますと共に、普段関わる事が少ない様々な団体の取組内容を拝見する機会を与えて頂いた主催者各位に感謝いたします。

河野 正人 (登壇者 朝田貴則)

東京都女子サッカー連盟



東京フットボールカンファレンスにおいて各連盟、委員会がプレゼンをすることが決定し、女子連盟のスタッフはプレゼンターを含め三名で作業を開始しました。プレゼンターについては現役の女子高校生選手で行こうとすぐに決定しましたが、肝心のプレゼン原稿の作成や、映像の編集等については不慣れなこともあり、完成したのはリハーサル前日という綱渡りのような状況でした。

発表のテーマは「女子サッカーって何?」「女子サッカーに関わりませんか」とし、女子連盟の現状と抱える課題について理解してもらい、「女子サッカーに関わる仲間を増やそう!」というプレゼン内容とすることに決定しました。映像担当の事務局長が各種大会、フェスティバルに出向き、映像や写真撮影を行いました。大量の映像や写真の中から編集データを選択することはかなり大変でしたが、意見を出し合いながらの楽しい編集作業となりました。

プレゼンターの女子高校生は、リハーサル前日に原稿を渡したのにも関わらず、与えられた時間通りに発表が終了するという見事な離れ業を見せ、無事リハーサルを終了し、カンファレンス当日を迎えました。当日の発表前は、たくさんの参加者を前にしてかなり緊張しており、どうなることかと心配しましたが、プレゼン開始の映像音楽が流れ、いざ本番が始まるとすぐに落ち着きを取り戻し、見事に役割を果たしてくれました。

参加者の方から「発表すごかったよ。」と直接声をかけられ、はじけるような笑顔を見せていたのが印象的でした。手作り感満載のプレゼンとなりましたが、非常に良い経験をさせてもらったとスタッフ一同感謝しております。

今後も「女子サッカーの仲間を増やそう!」とのスローガンのもと、女子連盟一体となり、選手、女性指導者、女性審判員の増加を目指していきます。

大野 博之 (登壇者 花枝 英)

キッズ委員会



私たちキッズ委員会の活動は、日韓共催ワールドカップを経て、2003年から協会直轄の組織「JFAキッズプロジェクト」として始まりました。普段から幼児のサッカー指導に携わるメンバーを招集し、2004年度から幼稚園や保育園への巡回活動、サッカーフェスティバルを開始しました。

現在では名称をキッズ委員会とし、事業部（フェスティバル担当）、巡回指導部、グラスルーツ推進部として活動を広げています。

巡回指導は幼稚園や保育園に伺い、園児たちとサッカーを楽しむだけでなく、園の先生方を巻き込み、普段から園の中でサッカーに触れあっていただくとする取り組みです。ユニクロサッカーキッズを代表とするフェスティバルや大会は、子どもたちや指導者のサッカーに対するモチベーションアップにも繋がっています。

園の先生方、保育士さん、キッズのイベントを手伝っていただける方を対象に、指導者講習会も実施していますので、ご興味のある方はキッズ委員会までお問い合わせください。

平野 正義

フットサル委員会



フットサル委員会は、連盟と協力しながらあらゆるカテゴリーのフットサル競技を網羅しています。今回はU-18年代の取り組みを中心に紹介させていただきました。

U-18フットサルの公式大会は、東京が全国に先駆け2001年度からはじめました。学校運動部も地域クラブも、普段はサッカーをしている人もフットサル専門で取り組む人も、多様なチーム、クラブが都内で育っています。

近年はFリーグの下部組織にタレントが集まるようになり、全国大会での優勝や、日本代表のアジア制覇への東京都出身者の貢献など、大きな成果が見られます。女子も盛り上がってきています。

カンファレンスではフットサルの魅力、東京都におけるあゆみと現状を紹介し、最後にフットサルの特徴と今後の展望を述べました。

- ・いつでも、どこでも、誰でも
- ・弾みにくいボール、狭いピッチ、屋内
- ・レディースにおすすめ-U-18女子の活性化を!
- ・サッカーのトレーニングとして有益

都心部において広いグラウンドを確保することは困難ですが、フットサルができるスペースはたくさんあります。これからもフットサルにご注目ください。そしてぜひ、皆さんも取り組んでみてください。

中塚 義実

審判委員会



2021年某日。2023年1月28日にカンファレンスが実施されるということで、審判委員会にも参加要請がありました。当初は、受講生の大半が指導者関係者中心になるであろう中で審判委員会として何を伝えられるだろうか?という不安や懸念がありましたが、カンファレンスチームを編成し準備に入りました。

「東京から世界へ」というテーマに対し、東京独自の試み・女性活躍・エイジレス・ジェンダーレスといったキーワードを抜き出し、30年以上継続している審判トレセンを軸に、活動内容と人物紹介という形を決めました。表現方法として寸劇を選択したのは、一般的な審判界へのネガティブなイメージ＝「堅い、閉鎖的、つまらない...etc.」を、少しでも払拭することへの我々の挑戦でもありました。そして、迎えた当日。キックオフの笛を吹く際とはまた違った緊張感を感じつつ、「この人達、何?」という、参加者の困惑した表情に掛けそうになりながらも発表を終えました。

本カンファレンスを通して、審判もサッカーを支えている役割のひとつであること、選手と同様に情熱を持って取り組んでいることを、少しでも理解して頂けたのなら報われる思いです。得難い機会を頂戴し改めて感謝申し上げます。

高橋 早織



皇后杯 JFA 第44回全日本女子サッカー選手権大会

日テレ・東京ヴェルディベレーザ 竹本一彦監督



皇后杯 JFA 第44回全日本女子サッカー選手権大会の決勝で、日テレ・東京ヴェルディベレーザがINAC神戸レオネッサを4-0で破り、16回目の皇后杯制覇を果たした。皇后杯制覇に至るまでの道のりを竹本一彦監督に振り返って頂いた。

一皇后杯優勝おめでとうございます。

竹本一彦監督:何回「ありがとうございます」と言っても嬉しいですね(笑)。お昼ご飯で稲城のお蕎麦屋さんに行った時もお店のご主人に「皇后杯優勝おめでとうございます」と言われてまして、こんなところでも知っている人がいるんだ、と嬉しかったですね。

ベレーザとして2大会ぶり16回目の優勝で、自分も過去に優勝経験はありますが、今回の優勝は格別に嬉しかったです。WEリーグができてから初タイトルということもありますし、今回のチームはとてもチーム間のコミュニケーション力が高く、一戦ごとに戦術的にも、ピッチ内の攻守も成長していくのが見ることができて、チームの中のまとまりも高くなっていった。1枚岩になって、優秀なスタッフ、キラキラするタレント力、それをミックスして優勝することができました。

少しタイトルからも遠ざかっていて、タイトルへの渴望の気持ちも強かったので、決勝戦が終わった直後は喜びを爆発させることができたことが嬉しかったですし、ベレーザだけでなく、ヴェルディも含めてクラブ全体が明るくなる話題を提供できた。そしてクラブハウスの玄関には、色々な方からのお祝いのお花をいただき、胡蝶蘭が乱舞するという絵は本当に嬉しいことです。そういうことがチームとしてできたので、クラブとしてもこの大会は本当嬉しいもので終わることができました。

一皇后杯に入る前のリーグ戦は4位でした。

7試合をやって4勝1分2敗(勝ち点13)。これは自分たちが予想していたよりも勝ち点は少なかったです。その原因については去年からもそうですが、ポゼッション率高く、相手のアタッキングサードに迫っていくことはできますが、その先の攻撃のクオリティー、フィニッシュに至る精度が課題でした。

皇后杯については、4回戦が1試合だけ早く(12月18日)、その前の週にホームでS広島R(WEリーグ第6節)とやって、その試合も拙い試合運びで0-1で負けてしまったので、大きな反省点、課題を残しつつ、皇后杯を迎えました。この1週間が勝負でした。気持ち的にも、ピッチ内の戦術的にも、スタッフ間、選手間でこのタイトルに向けてもう1回気持ちを高めるといふ部分でもとても大切でした。

一そういった中で迎えた皇后杯では圧倒的な力を見せました。

嬉しいことに怪我人も戻ってきて、小林里歌子が発で出られる状態になり、宇津木瑠美も先発から長い時間プレーできるようになった。やっとその2人の名前を先発に載せることができて、今シーズンのベストメンバーに近い形で、欠員なくプレーができたのが皇后杯4回戦のマイ仙台戦でした。なるべく早く先制点を取ろうという話はしていましたが、ただベストメンバーでやるのは初めてなので、

色々な緊張感もありつつ、開始1分に植木理子が宮川麻都のクロスから素晴らしいゴールを決めてくれた。今までのリーグ6試合の反省点が全部ふっとぶようなゴールでした。サッカー観としても地上戦ばかりでなく、空中戦が出てきて、その試合を4-1で勝つことができました。

準々決勝のS広島R戦は結構苦しみましたが、素晴らしいゴールが生まれ、完封もでき(3-0)、準決勝の新潟L戦も開始早々にまた点が取れて、危ない時間もありましたけど、ダメ押しゴールを決めて勝つことができて(3-1)、決勝の4-0というゲームに繋がりました。植木がこの4試合で8点と、取るべき人が取る。アシストする人がアシストする。中盤の三浦成美と木下桃香の力とか、三浦が欠場したら岩崎心南や菅野奏音が出て攻撃を組み立て、それから守備になった時の集中度は、どんどんチームが成熟していく、成長していくのがすごく感じられる一戦一戦でした。

それと4回戦から決勝まで、すべてが地方開催で前泊があったこともチームの一体感を高めるという意味で良い方向に出ました。そういう部分ではベテランの宇津木と岩清水梓がうまくチームの中で機能しました。キャプテンの村松智子、中堅の三浦、小林、宮川といった選手たちとともに、若手と中堅、若手とベテランが垣根なく接することによって、良い空気感を作ったり、チームの締めるところは締めて、緩むところは緩んでというチームの雰囲気がこの皇后杯ではできていました。

ベレーザのサッカーは中央突破やスルーパス、個人技と言われますが、新潟L戦の2点目は左サイドの宇津木から植木に30m以上の素晴らしいロングパスが通った。このボールは簡単に見えるけど、簡単じゃない。宇津木はワールドクラスの左足を持っていて、植木は相手のディフェンスラインの裏に抜けるスピードという良さを持っていますが、それがぴったりとあった。小気味良いパスばかりじゃなく、大きなこともできる。ロングディスタンスのカウンターもできる。そういうことがチームの戦術として選手たちが理解をして、コンビを高めていったのがあの得点で見えました。そういう部分でもすごく求めているものが見えてきた皇后杯でした。



優勝インタビュー



一この良い流れをリーグ戦へ。

皇后杯は良い形で終わりましたが、海外に移籍した選手がいたり（三浦が2月にアメリカNWSLのノースカロライナ・カレッジに完全移籍）、新しい選手や昇格してきた選手が入ったり、そういう新しい力が混ざっていく中で、皇后杯とはまたテストの違うサッカーで進歩して、リーグ戦を戦っていきたいと思っています。

一卷き返しの後期にしたいですね。

後期は残り13試合で、まだ半分も終わっていない。3月の3試合というのはとても大切だと思うので、まずは一戦一戦のことを考えて、勝利していきたくと思っています。上位もそんなに力が離れてるわけではないですし、ほかのチームも2年目でチーム力、守備力が上がっています。ですから、昨季のINAC神戸のように今季は独走はないと思います。それは私の予想です。残りの1節、2節、その時にどこにいるか。最後のところで、優勝のプレッシャーを味わって試合ができて、リーグが盛り上がるようになったらいいなと思います。



PROFILE

竹本 一彦（たけもと かずひこ）

1955年11月22日愛知県出身。1980年に読売クラブ／ジュニア（U-22）コーチで指導を始めると、ガンバ大阪トップチームコーチ・監督、柏レイソルトップチームヘッドコーチ・監督代行・GM、東京ヴェルディGMなどを経て、2020年から日テレ・東京ヴェルディベレーザGM、2021年から日テレ・東京ヴェルディベレーザ監督に就任。日本サッカー協会S級ライセンス。

日テレ・東京ヴェルディベレーザ 皇后杯 JFA 第44回全日本女子サッカー選手権大会 大会結果

4回戦	2022年12月18日 カンセキスタジアムとちぎ vs マイナビ仙台レディース ○4-1 ■得点者 1分 植木 理子 11分 北村 菜々美 17分 小林 里歌子 38分 植木 理子
準々決勝	2023年1月15日 カンセキスタジアムとちぎ vs サンフレッチェ広島レジーナ ○3-0 ■得点者 44分 植木 理子 67分 藤野 あおば 78分 植木 理子
準決勝	2023年1月22日 サンガスタジアム by KYOCERA vs アルビレックス新潟レディース ○3-1 ■得点者 3分 藤野 あおば 12分 植木 理子 66分 植木 理子
決勝	2023年1月28日 ヨドコウ桜スタジアム vs INAC神戸レオネッサ ○4-0 ■得点者 39分 植木 理子 49分 植木 理子 81分 小林 里歌子 90分 藤野 あおば



2022-23 Yogibo WE リーグ日程

- 4/2（日） 14:00 味フィ西
vs 大宮アルディージャ VENTUS
- 4/23（日） 14:00 広域第一
vs サンフレッチェ広島レジーナ
- 5/3（水・祝） 13:00 味フィ西
vs ジェフユナイテッド市原・千葉レディース
- 5/7（日） 14:00 浦和駒場
vs 三菱重工浦和レッズレディース
- 5/14（日） 14:00 味フィ西
vs ちふれASエルフェン埼玉
- 5/20（土） 14:00 味フィ西
vs ノジマステラ神奈川相模原
- 5/28（日） 13:00 ノエスタ
vs INAC 神戸レオネッサ
- 6/3（土） 14:00 味フィ西
vs AC 長野パルセイロ・レディース
- 6/10（土） 14:00 新潟市陸
vs アルビレックス新潟レディース





第 101 回全国高等学校サッカー選手権大会

2022 年 12 月 28 日から 2023 年 1 月 9 日まで行われた「第 101 回全国高等学校サッカー選手権大会」。
東京都代表として出場した國學院久我山高校、成立学園高校の戦いぶりを振り返っていく。

國學院久我山高校

チームDATA

創部：1964年／監督：李濟華／出場回数 9 回目

Member

Pos.	選手名
GK	1 石崎大登 (3年) / 17 太田陽彩 (1年) / 25 大村太郎 (2年)
DF	2 馬場翔太 (2年) / 3 普久原陽平 (2年) / 4 鷹取駿也 (3年) / 7 岡井陶歩 (3年) 16 本田一路 (3年) / 18 井料成輝 (3年) / 22 入野瑛太 (2年) 24 細川祐悟 (3年) / 28 常森瑤平 (2年) / 30 スコット颯真ニコラス (2年)
MF	5 内田幹太 (3年) / 6 山脇舞斗 (2年) / 8 高橋作和 (3年) / 13 保土原海翔 (2年) 14 近藤侑瑠 (1年) / 15 松田駿 (3年) / 20 洪潤紀 (2年) / 27 丸山正剛 (2年)
FW	9 中山織斗 (3年) / 10 塩貝健人 (3年) / 11 八瀬尾太郎 (3年) 12 佐々木登羽 (2年) / 19 金山尚生 (3年) / 21 高井琉士 (2年) 23 山田兼大 (3年) / 29 前島魁人 (1年)



優勝チームと善戦もPKで敗れる

國學院久我山の選手権は、ビハインドから始まった。近大和歌山高校と激突した初戦。開始5分でいきなり失点を喫してしまったが、選手たち
に焦りの色は見られない。

「後半もありましたし、じっくり1試合を掛けて2点取ればいいので、焦らずにできたと思っています」と1年生で中盤のアンカーを任されている近藤侑瑠が話せば、「80分の中で得点が取れるのはわかっていたので、1点取られてからは吹っ切れて、いつも通り落ち着いてできました」とはCBの鷹取駿也。その言葉は結果でしっかりと証明される。0-1のままで迎えた後半。42分に中山織斗が左サイドを切り裂きながら、そのままグラウンダーのクロスを入れ、エースでキャプテンの塩貝健人が確実にプッシュ。まずは同点に追いつくと、その3分後に今度は右サイドから八瀬尾太郎がクロス。こぼれに反応した塩貝と高橋作和がほとんど同時に蹴った「ツインシュート」は、ゴールネットへ吸い込まれる。リードしてからは國學院久我山の攻勢が続き、アディショナルタイムにも高橋が自ら獲得したPKをきっちり沈めて、最終的なスコアは3-1。「最初は『これが全国の緊張感か』と思いましたけど、もう失点してからは『やるしかない』という感じになったので、そこからは楽しめました」とは鷹取。積み上げてきた攻撃力を披露して、逆転勝利で逞しく初戦を突破することとなった。

今シーズンの國學院久我山は「ちょっと点を取るのが上手いチームだと思います」と李濟華監督も認めた通り、得点を奪えることがストロング



になっていた。塩貝という絶対的なストライカーを軸に、左の中山、右の八瀬尾がアグレッシブに突破を繰り返し、シャドーの高橋と山脇舞斗も得点力を兼備。セットプレーからのゴールも少なくなかった。だからこそ、3回戦の岡山学芸館高校戦が無得点に終わり、PK戦で敗れたことは痛恨だった。相手が日本一まで駆け上がったことを考えれば、その想いもおさらいだろう。ただ、裏を返せば彼らが全国制覇を狙い得る好チームだったことも、最後に付け加えておきたい。



大会結果

東京都大会 Aブロック

3回戦	vs 都立片倉	○ 11-0
準々決勝	vs 堀越	○ 3-0
準決勝	vs 帝京	○ 3-2
決勝	vs 実践学園	○ 3-1

全国大会

2回戦	vs 近大和歌山(和歌山県)	○ 3-1
3回戦	vs 岡山学芸館(岡山県)	● 0-0(PK3-5)

主 催：公益財団法人日本サッカー協会、民間放送 43 社
日 時：2022 年 12 月 28 日（水）～ 2023 年 1 月 9 日（月・祝）
会 場：国立競技場、駒沢陸上競技場、味の素フィールド西が丘、他

成立学園高校

チームDATA

創部：1967 年／監督：山本健二／出場回数 3 回目

Member

Pos.	選手名
GK	1 鈴木健太郎 (3 年) / 17 清水大和 (3 年) / 21 新渕七輝 (2 年) / 30 湯浅世琉亜 (2 年)
DF	2 清水冬真 (3 年) / 3 大川拓海 (3 年) / 4 藤井利之 (3 年) / 5 瀧川稜 (3 年) / 13 山崎真斗 (3 年) / 15 真田一樹 (3 年) / 24 竹谷来琉 (2 年) / 28 山口陸久 (1 年) / 29 鎌田真碧 (2 年)
MF	6 横地亮太 (2 年) / 7 陣田成琉 (3 年) / 8 武田悠吾 (3 年) / 9 渡辺弦 (3 年) / 10 八木玲 (3 年) / 12 武重陸人 (3 年) / 14 高木淳 (3 年) / 16 外山翔也 (2 年) / 18 柏田凌佑 (3 年) / 19 角田哲哉 (3 年) / 23 平原健吉 (2 年) / 23 佐藤連 (2 年) / 27 関口陽大 (1 年)
FW	11 佐藤由空 (3 年) / 20 菅野芳帆 (3 年) / 22 野尻七誠 (3 年) / 25 飯田怜良 (3 年)



17年ぶりの全国大会で確かな一勝

高校時代には自身も選手として国立競技場のピッチに立った山本健二監督は、改めてこの素晴らしいスタジアムで戦うことの意義をこう語っている。「やっぱりいろいろな意味で子供を大人してくれる場所じゃないかなって。この大観衆の中でプレーをして、自分の責任感が生まれるながらも、成長していくんじゃないかなと思います」。17年ぶりに全国大会へ帰ってきた成立学園は、1万人近い観衆を集めた聖地で粘り強く勝利を引き寄せた。

津工業と対峙した開幕戦。立ち上がりは選手たちからも緊張が伺えたが、少しずつ磨き上げてきたパスワークが、ボランチの八木玲と横地亮太を起点に機能し始める。35分に左サイドを駆け上がった滝川稜のクロスから、最後は陣田成琉がこぼれ球を蹴り込んで先制すると、40分にも八木の右CKに佐藤由空が高い打点で合わせたヘディングが、ゴールを陥れる。「前半はボールを動かすことができたので、それは良かったですね」と山



本監督。2点をリードして、後半へと折り返す。44分には再三チャンスを作っていた渡辺弦のゴールで、スコアは3-0に。以降も追加点を奪うチャンスはあったが、61分に1点を返されると、73分にも2失点目を許し、たちまち1点差まで迫られてしまう。



だが、「最終ラインの意思を統一するために、藤井と僕で声を掛け続けました」と話した佐藤と藤井利之のCBコンビに、GKの鈴木健太郎を中心とした守備陣が懸命に奮闘。「内容的には3-0で終わりがたかったですけど、1勝できたことは本当に嬉しいです」（山本監督）。相手の反撃に苦しみながらも、何とか成立学園が逃げ切りに成功した。

試合後にキャプテンの八木が、安堵の表情を浮かべながら口にした言葉が印象深い。「17年ぶりの全国大会ということで、学校の人や周りからの期待も大きかったので、多少はプレッシャーを感じていたところもありますし、昨日も寝られなかったんですけど、まずは1つ勝てて良かったです」。チーム一丸で掴んだ全国での確かな1勝。成立学園の新たな歴史が、国立の舞台にはっきりと刻まれた。



大会結果

東京都大会 Bブロック

3回戦	vs 桐朋	○ 2-0
準々決勝	vs 都立東久留米総合	○ 2-1
準決勝	vs 東京実業	○ 2-1
決勝	vs 国士舘	○ 2-1

全国大会

1回戦	vs 津工 (三重県)	○ 3-2
2回戦	vs 日本文理 (新潟県)	● 0-1



JFA 第28回全日本U-15フットサル選手権大会 フウガドルすみだウイングス 清家大葵監督優勝インタビュー



JFA 第28回全日本U-15フットサル選手権大会で初優勝を果たしたフウガドルすみだウイングスの清家大葵監督に初の日本一を手にするまでの軌跡を振り返って頂いた。

—初優勝おめでとうございます。改めて振り返っていかがですか。

清家大葵監督:ありがとうございます。優勝した3年生(新高1)のメンバーは、個人の能力が高く、1人1人ポテンシャルがありました。11人いる3年生は、ほとんど小学校からフットサルをメインでやっていて、そこからウイングスに入団する流れの子が多かったので、それがひとつ優勝に繋がった要因で、フットサルの戦術理解度が、すごく高い選手たちだったと改めて思います。

—清家さんは選手として大分時代にこのタイトルを取られて、今回は監督で優勝しました。こうなるとは自分でも想像していなかったのですが、すごく嬉しいですが、指導者として優勝できた今回の方が嬉しい気持ちが大きいです。僕が中学生の時に優勝した時は、ほとんどサッカーを主体としたチームでした。年を重ねるごとにフットサルの下部組織や、フットサル専門のチームが全国に出てくるようになってきていた中で、なかなか今までの歴史の中で純粋なフットサルチームが優勝したことがなかったのですが、今回ウイングスのようなフットサルしか練習していないチームが全国優勝できたというのは、フットサルの底上げになるといいますし、フットサルチームが積み上げてきたことが証明された年になったのではないかと思います。

—ポテンシャルが高かった代ということですが、どういったアプローチをしたのでしょうか。もちろん日本一になることが目標ではありましたが、当初は全国大会出場を目標に掲げました。東京都の1部のリーグ戦は昨年まで7連覇していて、選手権も大事ですが、まずはリーグ戦で優勝を遂切れさせないこと。ライバルのベスカドーラ町田と毎回1位、2位争いをしていくのですが、まずそこには絶対負けないとスタートして、今年度も優勝できて8連覇することができました。私が就任して1年目(2021年)は関東大会で、VITTORIAS FC U-15(千葉)に準決勝で負けて、あと一歩で全国に行けなかった。でも、その経験があったからこそ、今回強いサッカーチームと当たる時の戦い方だったり、戦術をしっかり組んでできた。例えばサッカーチームだったら3-1でピヴォを置いて、どんどん前に蹴ってくるみたいなのが多いのですが、今年はクワトロといって4枚のセットを1セット作って、完璧に仕上げて臨んだことがハマったと思います。あとは途中から入団してきた月井晨、羽生恒平の加入も大きかったですね。

—今年はしっかりと関東大会を勝ちきって全国を決めました。

(全国が決まる)準決勝がPK戦でした。練習はやっていたのですが、PKで負けたら仕方ないという感じで、日本代表の森保一監督じゃないですけど、僕が「蹴りたい選手は手を上げて」と言って挙手制にしました。そうしたらその試合1分も出せなかった3年生の選手が1番最初に手をあげてくれました。その子が1本目をしっかり決めて流れに乗って、サドンデスまで行きましたが、そこを勝って全国が決まったということもあったので、そこでチームの一体感が生まれたと思いました。その1番手のキッカーを務めた中村優希は全国大会の決勝戦で残り30秒ぐらいしか出さなかったのですが、その中で最後の1点を決めてくれました。

—全国大会を振り返って

(1次ラウンド第1節の)サウジ ワサダU-15(大分県)戦は一番難しかった印象で、映像も全くないですし、どういう特徴がある選手がいるかもわからないまま臨んで、もちろん初戦で難しいというのはどのチームもあったと思いますが、一番個人的にも苦しかったです。あの1回戦で勝てたというのが一番大きかったと私は思っていて、そこで引き分けていたら優勝は難しかったと思うぐらい、難しかったです。それ以降は試合ごとの対策はしっかりできたと思います。ただ、トップ選手ではないので、自分たちが普段、練習してきたことをピッチでできるか、できないかということが育成年代は一番大きいと思うので、その練習してきたものをピッチで表現してくれたのが優勝に繋がったと思います。決勝は先制されましたが、パワープレーも用意していたので追いつける自信はありました。その中で羽生がすごいミドルを叩き込んでくれた。あれが入った瞬間、流れがくるだろうと思ったぐらいのスーパーゴールだったので、あのゴールが入ったのは大きかったです。あとはゴールキーパーの伊藤鳳起が1本ビッグセーブをしたんです。僕もキーパーをされていてと思いますが、フットサルはキーパーが大事なというのを感じられる大会だった。彼じゃなかったら優勝できてないというぐらいのパフォーマンスはしてくれたと思います。

—今大会優勝に繋がった一番の部分は

今回連れていった16名は1年間、ウイングスのAチームとして活動してきましたが、チームを立ち上げた当初にはなかった一体感、チーム力というのが、全国大会で目に見えたと思います。もちろん能力は高かったのですが、それ以上に仲間を鼓舞したりとか、声をかけたりということが、すごく見られました。「フウガッばい」とよく言うのですが、昔のフウガはベンチで盛り上げたりというのが、今のウイングスにはあると思っていて、それが今大会は体现できたと思いました。

—この経験を次の年代へ

毎年何人かはサッカーの部活に行ったりする子がいますが、今年は3年生全員が(U-18チームの)ファルコンズに上がることが決まっているので、それはクラブとしても一番良いことで、理想的な形だと思います。全国を見ても日本一を獲った人はなかなかいない。そこには自信持ってプレーしていると思うので、高校1年生から上の学年を脅かせるような存在にはなれると思いますし、僕も近くで彼らの頑張っている姿を見ることができるので、それは指導者としてはすごく嬉しいことです。

PROFILE

清家 大葵(せいけ たいき)

1990年12月7日、大分県生まれ。バサジィ大分、シュライカー大阪、フウガドルすみだでプレーした後、すみだサッカークラブU15で指導。2021年からフウガドルすみだウイングス 監督・GKコーチとなり、2023-2024シーズンよりTOPチームのGKコーチ就任。日本サッカー協会公認フットサルC級コーチライセンス、日本サッカー協会公認サッカーC級コーチライセンス

TOPICS

JFA 第26回全日本U-18女子サッカー選手権大会

優勝・日テレ・東京ヴェルディメニナ

JFA 第13回全日本U-15女子フットサル選手権大会

準優勝・十文字中学校

第31回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

準優勝・十文字高校

第31回全日本高等学校女子サッカー選手権大会は1月8日(日)、ノエビアスタジアム神戸で決勝が行われて、十文字高校は藤枝順心高校(東海/静岡)に敗れて準優勝となった。決勝戦はお互いにハイプレスをかけ合う、激しい主導権争い。試合が動いたのは68分。藤枝順心が先制ゴールを決めて、この1点を守り抜いて勝利した。十文字高校は全国制覇まであと一歩が足りなかったが、見事な戦いを見せた。

サッカーとフットサルの経験をすることで、成長に繋げる 東京都 U-12 フットサルプレリーグ



TokyoDreamFC



武蔵いずみAFC



武蔵村山1FC

東京都フットサル連盟は、2023年度から4種(U-12年代)のリーグ戦を開催するにあたり、2022年12月から2023年3月の期間でプレリーグを行った。

サッカー、フットサルの経験を提供する場に

活動地域をベースに5エリアに(EAST、WEST、SOUTH、NORTH、CENTRAL)に分かれてリーグ戦を行い、順位を決定。各エリアの上位チームがチャンピオンシップへと出場する方式だ。



フットサルの普及・発展、選手の技術向上や交流を目的とするが、今大会の開催理由について、東京都フットサル連盟の藤森雅義専務理事は「まず登録人数を増やすこと、そして4種のリーグを設立することで、中学生、高校生になっても続けていく選択肢の最初の一步にしたいですし、サッカーとフットサルの双方を経験することでプレーの幅も広がると思っています。子どもたちの成長につながってほしいです」と語った。

みんな真剣にボールを追いかける

プレリーグには計22チームが参加。各地で熱戦が繰り広げられる中、最多8チームがしのぎを削り合うWESTエリア(会場：ドリームフットサルパーク/瑞穂町)を2月19日に取材した。この日、唯一の2連勝を飾ったのが武蔵村山1FCだった。第1試合ではTokyoDreamFCと対戦。フットサル経験のある女子が1名で、ゴールキーパーを含めたあとの4人はフットサル未経験者とのことだったが、それぞれが器用に足裏を使い、そして細かいタッチのドリブルでボールを運んでいく。11人制のサッカーとは違い、コートが狭いフットサルでは攻守が目まぐるしく入れ替わりゴール前での攻防が際立つ。豪快なミドルシュートも見応えあるが、味方とタイミングを合わせ、相手を引き付けてから動き出すプレーも目立っていた。また、小学校高学年とはいえ、ボールホルダーに食らいつきボール奪取を試みるなど球際でも大人顔負けの迫力あるシーンが続いた。武蔵村山がサイドを突破しリズムの良い攻撃から得点を重ね前半を3-1で折り返す。後半も主導権を握り2得点を追加し5-1で勝利した。

続く第2試合は武蔵いずみAFCと対戦。開始早々、武蔵村山が中央突破に成功するとゴールキーパーが前に出てきたところを見逃さず先制ゴールを流しこむ。その後も追加点を狙い力強いミドルシュートを放つが、相手キーパーのファインセーブに阻まれ得点はできなかった。

1-0でハーフタイムを迎えた両チームの選手たちは、監督やコーチからの指示を真剣に聞き、選手同士で確認をし合っていた。後半の立ち上がりにも武蔵村山が得点を奪うと、エンジンがかかってきた武蔵いずみが1点を返し反撃ムードを作り出す。しかし、切り替えとサポートのタイミングを速



めることでボールを奪いチャンスを作る武蔵村山が立て続けに3度、ゴールネットを揺らしリードを広げる。これで4点のビハインドを背負う形となった武蔵いずみだが、粘り強さと最後まで諦めない姿勢でゴールを目指したことが実を結ぶ。高い位置でボールを奪いカウンターからシュートを決めると、さらに勢いに乗る武蔵いずみが2連続ゴールを取り1点差にまで詰め寄ったが、最終的に武蔵村山が5-4で逃げ切った。

子どもたちにとって、自分のプレーが通用し自信を持てたことは大きな財産となり、失敗は次への糧となるはずだ。日頃の練習で身に付けた技術や戦術の成果を試合で発揮しようとチャレンジするチームが多く、フットサルを楽しみ、規則や規律を学び、仲間を鼓舞して共に戦う一体感などを示す姿が印象的だった。また、当然のことながら実力のある強豪チームもあれば、日も浅く、試合経験も少ない、まだまだ成長段階のチームなど、レベルも様々だが、共通しているのは真剣にボールを追いかける姿と笑顔の多さだった。試合後には「楽しかった」という子どもたちの声がコートのあちこちから聞かれた。

今大会がフットサルの認知度向上と小学生世代のレベルアップの一助になることは間違いない。ここで経験を積んだ子どもたちが、やがては世界の檯舞台で活躍し、フットボール界全体を盛り上げていくことへの期待は膨らむ。

COMMENT



武蔵村山1FC 鈴木正広コーチ

サッカーを学びながらフットサルも経験し、いずれはどちらか自分のやりたいものを選んでもらえたらと思っています。ルールを学びながら、とにかく楽しくやろうという目的で参加しています。生涯、サッカーを続けてもらうためにも、いつもポジティブな言葉をかけ続けています。このプレリーグでは、子どもたちの成長と自分の成長、お互いが成長できて良い活動ができています



武蔵いずみAFC 田中一輝キャプテン

フットサルをやってみて慣れない部分もありましたが、ドリブルが強い選手は活きますし、それをチームで活かしていると思います。球際が強いのでドリブルをしていると楽しいです。フットサルを経験していることで、ボールタッチが細くなっているのでもっと上手になっていると思います。この大会は楽しいです。

東京都フットサル連盟 藤森雅義専務理事

今プレ大会は、フットサルの認知や来年度の本大会への告知を含めたプレ大会です。東京都のフットサル競技人口は1種が圧倒的に多く、2、3種にいくほど減っているのですが、今回、4種のカテゴリーについて手を付けました。まず登録人数を増やすこと、そして4種のリーグを設立することで、中学生、高校生になっても続けていく選択肢の最初の一步にしたい。また指導者同士がノウハウなどのコミュニケーションを取ることで試合に反映され、なおかつサッカーの広くなったピッチでも習得したことが活きる相乗効果が生まれ双方につながる。いずれはこの大会がきっかけとなりJFAバーモントカップ全日本U-12フットサル選手権大会やJFA全日本U-12サッカー選手権大会で成績を残すチームが出てきてほしいと思います。



JFA キッズ (U-6) サッカーフェスティバル 2022



写真提供：「オールスポーツコミュニティ」

1月22日に味の素スタジアムで行われ、午前の部、午後の部合わせて56チームが楽しみながら汗を流した。

1年ぶりの開催に子供たちも笑顔に

2021年度は、新型コロナウイルスの影響によりたくさんの制限の中、なんとか開催にこぎつけたこのフェスティバルも緩和モードで1年ぶりの開催に子供たちの笑顔が咲いた。

委員長は「いまU-6に値する、幼稚園児や保育園児ですけども、この3年間はずっと我慢で、友達と一緒に遊ぼうといっても、密になってはいけませんとか、くっついてはダメだとか、そういう制約を設けられて、人間成長の過程で問題が起こらないように、私たちができることやってあげるってことが大切」と話す。

感染対策にも十分気を配りながら、2022度は午前の部28チーム、午後の部28チームと参加チームを分散させながら実施。それぞれの部で4チームずつ、7面に分かれて総当たり(8人制、10分間)で試合を行った。もちろん、今年も「楽しむ」というところにフォーカスし、勝ち負けの提示はしない。審判役として参加した杉並総合高等学校・女子サッカー部がピッチアウトしたボールを劣勢のチームやあまりボールを持てていない子に渡すなど、うまくゲームをコントロールしていた。また、今年は例年同イベントを行っていたAGFフィールドが芝の張り替えで使えなかったこともあり、味の素スタジアムでの開催となったが、FC東京や東京ヴェルディがホームスタジアムとして使うピッチの脇でのプレーは子供たちにとっても大きな刺激になったようだ。



平野正義キッズ委員長

コロナ禍でのイベントの形の変化 「ある環境で、より子供たちが楽しめるように」

コロナ禍で迎える3年目。まだ、人数制限などもある中でイベントの形も変化してきている。東京都ではこれまでチームで参加する「JFAユニクロサッカーキッズ」に加え、個人参加の「JFAグラスルーツ



フェスティバル」を年に2度、AGFフィールドなどで開催してきたが、「それぞれの地域で、より小さい規模で、人数制限ができるような形」にシフトしてきているという。昨年は「ミニグラスルーツフェスティバル」という形で福生や昭島、多摩でイベントを行った。

平野キッズ委員長は「いわゆる親子サッカーのような形で、より子供たちとの関わりの中で親子の愛情の確認だとか、楽しさだとか、そういったファミリーな動きになってきていて、別の形でまた良いところが出て、新しいその形が見えてきている。昔のような形(大きな規模のイベント)でやりたいという気持ちもありますが、そのあたりはこの先いつになったらという状況もある。ある環境で、より子供たちが楽しめるように、ということを考えています」と話す。

COMMENT

○粕谷匡男さん (さくらFS)

「我々はクラスチームなので、ここで「好き」「楽しい」というのを一番に教えて、この後続ける子も続けない子も、チームスポーツの大切さだったり、仲間と協力して何かを超えようというのを経験できる素晴らしい場所だと思い、毎回参加させていただいています。今回も本当に心身ともに成長させていたのだと感じたので、これから出続けたいと思っています」。

○射場慎平さん (くまの・サッカークラブ)

「子供たちが楽しんでサッカーができる環境を協会の方が提供してくるので、みんな楽しくサッカーができています。あとはやっぱり私たちの時代とは違って、こういうところで行けるというのは本当に良いこと。プロの選手になるとかじゃなくても、ここにJリーグを見に来た時や甲州街道を通っている時、「ここで昔やったな」とか、そういう思い出になればいいと思います」。

○江間繁博さん (小柳まむし坂園児サッカースクール)

「やっぱり楽しいですね。勝敗を競わない。それがとても良いと思います。点が入っても、普通のルールだと一度プレーが終わってキックオフから始まるけど、このルールの場合は点が入ってもすぐ次のことに行かなくていい。ボールが出たとしても、すぐまたボールがどこから出てくるから、子供は休む暇なく10分間動き続ける。このやり方はとても良いと思っています」。

○中村友宣さん (FC Grato)

「Gratoになって5年目になるんですけど、こうしてこういう素敵な場所でやらせてもらえることが本当に貴重な体験となっていますし、本当にいつも子供たちが何よりも楽しそう。プロが使っているグラウンドと同じ場所に立てるというところは本当に子供たちだけでなく、保護者の方にも嬉しいと思う。子供たちには将来「ここでやったんだ」というのを実感してほしいです」。

めざせクラッキ!

JFA チャレンジゲーム ボールはともだち



各イベント・フェスティバルで配布されている冊子

保護者の皆様へ

未就学児
たいしょう
対象!

オリジナルポケモンシールを集めて
スターターキットをゲットしよう!

「めざせクラッキ!」の全ステージ合格と、各地で開催されているイベント・フェスティバルに参加者限定のオリジナルポケモンシールをゲットした未就学児を対象に、スターターキット（サッカーボール・リュック（3色から1色を選択））を無料（送料はご本人負担）でプレゼントします! ぜひお子様といっしょにチャレンジしてください!

スターターキットとは

- サッカーボール3号軽量球
- リュック（3色から1色を選択）
- その他サッカー関連用具
- 「めざせファンタジスタ!」ハンドブック
- 「めざせベストサポーター」ハンドブック（保護者向け）



課題① めざせクラッキ! の全ステージ合格

- ステージ1～ステージ6まで順番にチャレンジしてみよう
- それぞれのステージを合格できたら、P40～41にステージ合格シールを貼って、ステージ6まで合格しよう

課題② イベント参加者限定の
オリジナルポケモンシールを2枚ゲット

- 各都道府県サッカー協会が開催する限定シール配布対象のイベント・フェスティバルに参加しよう
- 参加したら、P41に限定シールを貼ろう

2つの課題をクリアしたら...

イベント検索・
申込



全国の
イベント一覧



スターターキットをゲット!

「JFA Passportアプリ」をダウンロードして、シールを貼ったページを撮影して申し込もう!

1 「JFA Passportアプリ」をダウンロード!
お子様のアカウントでログインして
スターターキット申込ページへ!

iOS

Android

2 シールを貼ったページ
(P40～41)の画像を
アップロードし、
送付先情報を入力して
申込完了!

当事業の名称・課題・商品仕様・申込方法は予告なく変更する場合や、事業実施を終了する場合があります。予めご了承ください。

東京都サッカー協会 限定シール配布対象イベント・フェスティバルの紹介

これまでサッカーに親しんだことがない幼児も含めて、より多くの子ども達がボールを蹴る楽しみを身近に味わえる機会を提供しています。

<過去のイベント・フェスティバルの様子>

JFA キッズ (U-6) サッカーフェスティバル 2022 東京



写真提供:「オールスポーツコミュニティ」

ミニグラスルーツフェスティバル 2022 in 昭島



第17回 JFA グラスルーツフェスティバル 2022 in AGF フィールド



写真提供:「オールスポーツコミュニティ」

今後の予定

JFAユニクロサッカーキッズ

対象: チーム参加 (年長児)

JFAキッズ (U-6) サッカーフェスティバル

対象: チーム参加 (年長児)

JFAグラスルーツフェスティバル

対象: 個人参加 (年中児～小学2年生)

ミニグラスルーツフェスティバル

対象: 親子参加 (年中児～小学2年生)

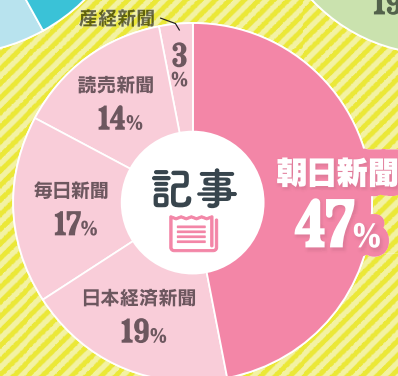
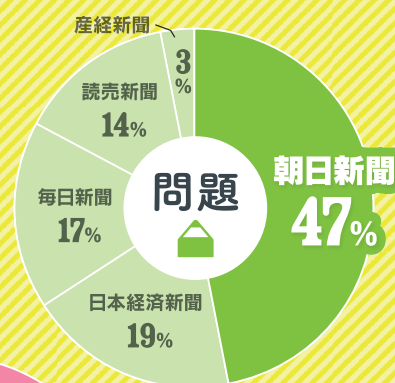
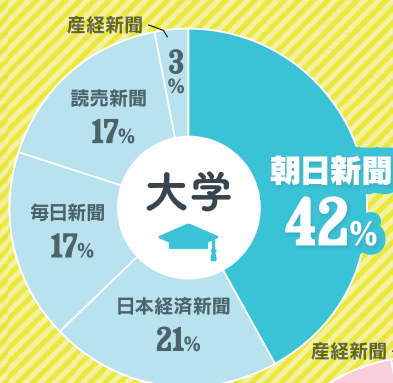
※限定シールの配布は、スターターキット対象の未就学児のみとなります。

各イベントの情報は、東京都サッカー協会ホームページをご確認ください。 <https://www.tokyofa.or.jp/category/kidsproject/>



朝日新聞は 2022年度も 大学入試 出題数 NO.1

全国紙の2022年度大学入試出題実績



※大学通信調べ(2022年6月13日現在)。全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞(読売新聞オンライン)、朝日新聞(朝日新聞デジタル)、毎日新聞(毎日新聞デジタル)、日本経済新聞(日経電子版)、産経新聞(産経ニュース)、回答数792。

